

第34回日本末梢神経学会学術集会 ランチオンセミナー ①

学術集会ホームページ
<https://www.acplan.jp/jpns34/>



神経障害性疼痛に対する 薬物治療・外科的治療の 最近の話題

2023年
9月8日(金)
12:10~13:10

第1会場
京都テルサ (テルサホール)
〒601-8047 京都市南区東九条下殿田町70

座長

山本 美知郎 先生

名古屋大学大学院医学系研究科
運動・形態外科学 人間拡張・手の外科学 教授

演者

田中 啓之 先生

大阪大学大学院医学系研究科
運動器スポーツ医科学共同研究講座 特任教授

認定単位

- ①日本手外科学会教育研修単位
1単位を取得できます。
(受講料1 演題1,000円)
- ②日本整形外科学会教育研修単位
1単位が取得できます。
(受講料1 演題1,000円)
必須分野：[8] 神経・筋疾患(末梢
神経麻痺を含む)

第34回日本末梢神経学会学術集会
ランチオンセミナー①

神経障害性疼痛に対する 薬物治療・外科的治療の最近の話題

田中 啓之 先生

大阪大学大学院医学系研究科
運動器スポーツ医科学共同研究講座 特任教授

神経障害性疼痛は「体性感覚神経系の病変や疾患によって引き起こされる疼痛」(日本ペインクリニック学会「神経障害性疼痛薬物療法ガイドライン改定第2版」)と定義されており、その薬物治療においては、第一選択薬としてプレガバリン、三環系抗うつ薬などが、第二選択薬としてワクシニアウイルス接種家兎炎症皮膚抽出液、トラマドールが、第三選択薬としてオピオイド鎮痛薬(トラマドール以外)が推奨されている(同ガイドライン)。しかしながら、これらの薬剤はすべて鎮痛薬としての位置づけであり、末梢神経の障害部位そのものに対して働きかける薬物についてはビタミンB12製剤のみが承認されている状況であり、この数十年間でほとんど進捗が見られないのが現状である。障害を受けた末梢神経部位を回復・再生させ、正常化することで、神経障害性疼痛をある程度抑制することができるため、そのような働きを有する神経回復剤・再生剤の開発も待たれるところである。

神経障害性疼痛を誘引する末梢神経障害は日常診療においてよく遭遇する疾患の一つであり、整形外科領域においては手根管症候群などの絞扼性神経障害が、内科領域においては糖尿病性神経障害が代表的な疾患である。特に整形外科領域における疾患に対しては、外科的治療が選択されることが多く、劇的な治療効果が得られることも稀ではない。しかしながら、同部位への複数回の手術が神経障害性疼痛を惹起することも稀ではない。そこで、絞扼性神経障害などの末梢神経損傷に対する再手術時の癒着・瘢痕防止を目的としたvein wrappingなる手法が1990年頃から報告されるようになり、その詳細なメカニズムについても徐々に解明されつつある。また、近年では生分解性ポリマーや同種他家組織、異種組織を用いたnerve wrap/cuff剤(末梢神経保護剤)の開発が進められ、海外においてはすでに上市、臨床応用されている製品もあるが、その臨床成績についての報告は散見される程度であり、本邦においては未承認の医療機器となっている。本セミナーでは、前臨床段階のものも含めた神経障害性疼痛に対する薬物治療および外科的治療について、我々の研究結果および今後の展望も含めて解説したい。